中国地域半導体関連産業振興協議会 第2回会合 意見交換要旨

<サプライチェーン強靱化・集積強化>

- ・パンデミックの他にも、環境規制や地政学的リスクも予想され、サプライチェーン全体でリスク管理を強化していきたい。(企業)
- ・必要な部材を世界から調達する中で、フロンガスなど規制により日本に入っていない、あるいは供給できないといった事業制約については個々の企業の対応では限界があるため、半導体業界として多面的に対応する努力が必要。(企業)
- ・サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを達成する要求が強まり、再生エネルギーの活用も求められるため、これらに関する国の動向や施策について情報提供頂けると有難い。(企業)
- ・関連する規制や国の施策動向の情報などを県内企業に還元し、支援に繋げたい。(自治体)
- ・県内の中小企業を対象としたビジネスマッチングでは、半導体装置関連の企業を探す動きが徐々に増えている。(支援機関)
- ・半導体関連企業との新規取引は難しいとの感覚を持つ企業に対して、業界の特徴を理解して乗り出して頂けるよう、発注企業のニーズ発信や勉強会の機会をこの協議会を中心に作りたい。(支援機関)
- ・我々が関与して海外企業と地域企業を結び付けた事例があるが、その時には契約書が英文で、日本の商習慣と異なる条文があり、慣れない企業からすると難しさを感じる場合があるため、ノウハウを知る機会が必要。(支援機関)

<人材育成・確保>

- ・半導体関連を専門とする教員が減っており、人材育成のリソースがかなり絞られている。(大学)
- ・学生に装置を使わせる、デバイスを作って評価させるといった実習に経費がかかり、外部資金を積極的に獲得しているものの、不安定な状況。(大学)
- ・半導体製造現場を一通り経験できる実習について学内で議論しているが、学内だけでは取組に限られるため、企業からも参画して頂けると有難い。(大学)
- ・人材の階層はいくつかあるが、まずは半導体の専門知識を持つトップ人材の育成に向け、専門知識を大学等で身につけられるよう、必要な講義や講師を提供するなど対応していきたい。(企業)
- ・入社前に半導体製造現場を一通り経験することは貴重な機会で、より多くの方が参加できると良い。(企業)
- ・産側と学側の人材育成内容を相互に知り、互いに何を補完できるかを検討することが重要。(高専)
- ・半導体人材育成講座が熊本と佐世保でスタートし、半導体への関心が高まっている。取組を継続していくことが重要。(高専)
- ・理系全体の学生を採用対象としているため、半導体業界の基礎を理解した上で、企業見学などで業界の魅力や将来性を知ってもらえる場を、WGを通して作りたいと考えている。(企業)
- ・人材確保について、目標は年間10人だが実際に採用できるのは5~6人程度であり、ものづくりが好きなエンジニアに出会うことに苦労しているため、半導体の魅力発信は重要。(企業)

- ・これまで出会いの場が少なかった高専との接点は貴重で、高専卒業生に継続的に入社頂くための方法を、WGを通して検討していきたい。(企業)
- ・新卒採用で苦戦しており、人材紹介会社を活用して幅広い年齢層からスキルを持った中途採用者を採用することにより補っている。(企業)
- ・工場に近い高専とコミュニケーションをとっており、数年前には実習に協力したこともあったが、近年はエンジニアやオペレータなどの人材確保が難しくなっており、工業高校を対象とした実習も検討している。(企業)
- ・人材の全体量を増やす必要がある。(企業)
- ・ダイバーシティに注力しており、環境整備やPRとともに、県内の女子高校生を対象とした工場見学や講義の実施などに取り組んでいる。(企業)
- ・小中学生にもものづくりへの親しみを持ってもらい、高校での理系選択に繋がるよう、県・市町の教育委員会と共同で、理系志向を高める出前授業を実施予定。(自治体)
- ・高専と大学向けにキャリア講演会を実施しており、2022年度から中国地域にも展開して高専で開催している。学生からの評価も高いことから、半導体関連企業への就職に繋がることを期待。(業界団体)

以 上